

V 自立をめざした作業学習の指導

1 高等部の取り組み

高等部では、小・中学部における指導を継続発展させて、教育の総仕上げとして、一人一人の生徒が可能な限り社会的に「ひとり立ち」することをめざして教育を進めている。卒業後の進路を生徒の実態や社会の実状から考えるとき、職業自立（就職）のみを、すべての生徒の到達目標ととらえることは困難となってきている。したがって、社会参加の様態は、一人一人の発達段階や特性、障害の状態などによって、いろいろな在り方を求めていかなければならない。しかし、社会へ巣立つ生徒たちが、どのような場に生きていくにしても、いろいろな支えにつかまらながらも、絶えず自らの手でやろうとする努力をつづけ、自分なりの生きがいや自信を高めて、たくましく生きていく姿は、我々が共通して求めなければならないものである。

このようなとらえから、研究テーマにせまる指導は全教科・領域の教育活動を通して進めていくわけであるが、先ず、我々は高等部の主要な学習形態としている作業の指導を通して、どのようにアプローチできるかについて研究・実践を進めることにした。

本校では、作業学習の目標を職業教育・職業自立のみに片寄らないようにと考えて、つぎのように設定している。

- (1) 働くことの大切さを知り、働くことに対する気力・意欲を高める。
- (2) 人とのかかわり合いを大切に、基本的な行動様式や好ましい作業態度を身につける。
- (3) 加えて、作業に必要な基礎的知識・技能の習得を図り、反復的な訓練により身体諸機能の発達を促す。

現在実施している作業学習は、生徒全員対象の農耕園芸（週2時間）、コース別（週6時間）の木工・印刷・陶芸・被服の他に、数日間連続した校内作業実習を年間4回行うとともに、一般の事業所における校外職場実習を実施している。

第一年次研究として、一人一人の生徒の発達段階や障害が様々である実態から、個人内の発達のみならず、個々の生徒の実態を把握して、個別に具体的な指導目標を立てる。

- (1) 将来の社会・職業生活に必要と考えられる態度的な要素とその内容を段階別にとらえる。
- (2) (1) をもとに、個々の生徒の実態を把握して、個別に具体的な指導目標を立てる。
- (3) 個別の指導目標達成のために有効な指導の手だてと評価方法を工夫し実践する。

以下、短期間の研究・実践であるが、その概要を述べる。

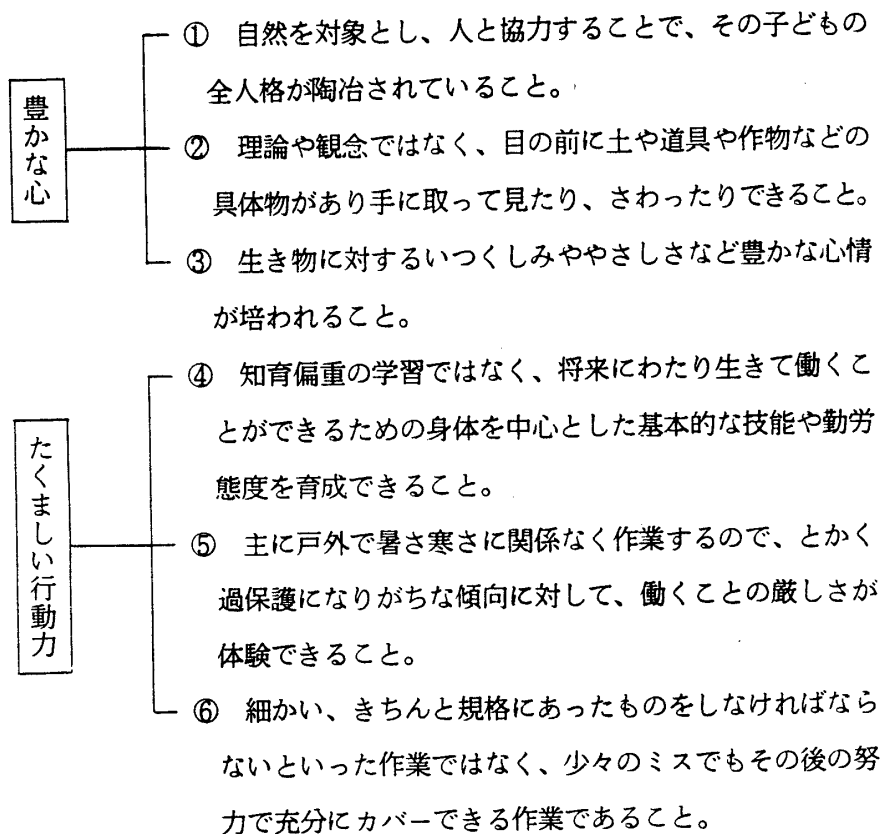
項 目	内 容	段 階 Ⅰ	段 階 Ⅱ	段 階 Ⅲ
おだやかな心	失敗をしたり、注意をうけても心の動揺を押さえ、安定した態度で仕事をつづける。	刺激がなければ落ちついて作業にとりくむ。	多少の動揺や、気のりがしないことがあっても自分で押さえたりして、普段の通りに作業をつづける。	つねに落ち着きを保って、着実に作業をつづける。
おもいやり	他に迷惑をかけないで、だれとでも協調し、場面に応じて積極的に協力する。	やたらに口や手を出して他の仕事をじゃましたり、勝手なことをしない。	他をせめたり、あらそうことなく協調して作業をする。	仲間意識をもち積極的に支え合って作業をする。
け じ め	好感をもたれる言葉づかひや、節度のある態度をとることができる。	指摘されるとあいさつや返事ができる。自分なりに身支度をしようとする。	自分からあいさつや返事ができ身だしなみも一応できる。	つねに好感をもたれる言葉づかひや、礼儀正しい服装・態度がとれる。
や る 気	自分から進んで仕事に取り組み、よりよい仕事をしようと努力をする。	指示されたことを、他をまねながらなんとか作業をする。	与えられた作業や習慣化されたことは自発的にやる。	作業能率を考えむづかしい作業にも意欲をもってあたる。
根 気	時間いっぱい集中して、ねばり強く仕事をやりぬく。	自分が興味をもつ作業なら、一応つづけられる。	与えられた時間いっぱい、辛抱して作業をつづける。	どんな作業でも終始熱心に取り組み、最後までやりぬく。
責 任 感	自分のなすべき仕事や役割を自覚して、確実にやりとげる。	指示をうけながら、簡単な作業の責任を果たす。	自分の役割を最後まで確実に果たす。	自分のこと以外でも簡単なことなら、指示がなくても責任をもってやりとげる。
きまりよさ	作業をする上でのきまりを守り、場に応じた言動がとれる。	指示や注意をうけながら、きまりを守って作業をする。	作業上のきまりがわかり、作業を進めようとする。	場に応じた言動をとりながら、作業ができる。
てぎわよさ	安全に配慮しながら、与えられた仕事を正確に速く仕上げる。	補助をうけながら、与えられた作業をこなす。	けがに注意し、できるだけ正確に速く作業をしようとする。	安全に気をつけて、工夫しながら能率よく作業をする。

2 各コースの取り組み

【農耕園芸】

(1) 基本的な考え方

人間の基本的な労働形態というのは、自然そのものを利用し更に人工的な手を加えることによって生活に必要なものを作り上げる過程であるといえる。農工園芸（以下農園という）はその典型的なものであり、労働のベースといえるものである。作物を植え育て生産物に仕上げることは、素朴だが基本的な生活方法を身につけることができるし、またそこには働く喜びがある。農園作業は命あるものを育てる側面が何にもまして大切なことであり、そこからくる作物へのやさしい心情と、それを育てる労働の厳しさは必然的に体得されるものであり、当然体得させるべき基本的態度である。体全体を使い、汗と土にまみれて行う作業は、人間の成長発達に必須なものを多く含んでいるからである。以上は、本校の研究テーマである「豊かな心を持ち、たくましく行動する子を目指して、の豊かな心に、主に視点を置いて述べたものであるが、農園作業は本来作物を植え育て収穫するといった、根気や責任感なしではできない厳しい作業なのである。従ってこの作業を続けていく中で、作物に接するときにはどういう態度で接したらよいか、皆の協力なしではやっていけないこととかの、いわゆるたくましい行動力もおのずとついてくるはずのものである。以下に本校の生徒にとって農園作業のもつ意義を挙げ、これが豊かな心、たくましい行動の育成にどう関係しているかを図示する。

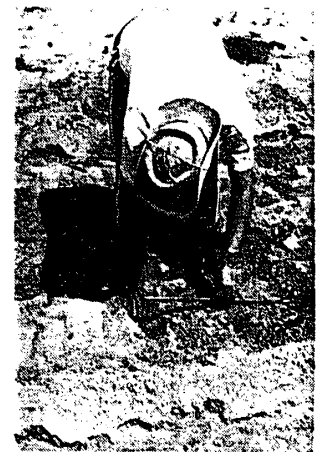


(2) 生徒の実態と目標

生徒名	性	C.A.	M.A.	I.Q.	S.A.	S.Q.	実 態	目 標
A (3年)	男	18:7	9:5 57.4 WISC-R	60	6:5	35	一つの作業が根気よく続けられる。相手によって接する態度が違う。不器用	誰に対してもやさしく接することができる。手先の訓練をしっかりとる。
B (3)	"	18:4	9:2 53.6 WISC	55	4:5	25	体調のよいときは、何事も意欲的に取り組む。人の指示が素直に聞けない	人の言うことを素直に聞く態度作り。体の自己コントロール。
C (3)	"	18:2	9:9 57.4 WISC-R	69	14:10 以上	82	手先が器用で正確さを要求する作業を無難にこなす。作業中、中座や私語があり根気よく作業が続けられない。	裏表のない真面目な作業態度。
D (3)	"	18:2	6:4 54.7 田中ビネー	39	5:1	29	要領をおぼえれば根気よく作業ができる。作業のスピードが遅い。	作業を手際よく処理する。
E (3)	"	18:1	13:3 57.4 WISC-R	78	14:10 以上	83	計量や計算が正確で早い。作業中の中座や私語が多い。	言葉使いをよくする。仕事に責任を持つ。
F (3)	女	19:4	測定不能		4:3	22	理解力があり作業にほとんど参加できない。花が好きで、歩き回って取っている。	花を愛する心を大切にし作物を育てようとする態度を育成する。
G (3)	"	19:0	6:7 54.7 田中ビネー	39	5:1	27	ていねいに作物を取り扱う。身じたくに時間がかかり、仕事にかかるまでの時間が長い。	協調性を養い、終始マイペースの状態から脱却する。
H (3)	"	18:2	7:0 54.7 田中ビネー	37	6:6	37	何事も意欲的で人の世話をよくする。細かな作業ができない。	手先の訓練をしっかりとし、器用さを養う。
I (2年)	男	17:8	6:2 56.6 WISC	54	8:2	47	身じたくよし。作業中の中座がある。消極的なところがよくみられる。	指導的立場に立させ、やる気を起こさせる。
J (1年)	"	19:7	4:8 54.6 田中ビネー	28	6:0	31	水やりはていねいに行けるが、多くの作業に責任感が感じられない。私語や中座が多くある。	一つの作業を根気よく続けることができる。
K (1)	"	16:2	11:2 57.1 WISC	92	14:10 以上	93	計量・計算が正確。後始末ができない。声が小さく消極的。	作業目標を与え、やる気を常に持たせる。
L (1)	"	17:5	6:6 54.9 WISC	52	6:9	39	作業はていねいに行けるが、中座や私語が多い。	一つの作業を黙って根気よく続ける。
M (1)	"	16:6	8:8 54.6 鈴木ビネー	54	9:11	61	ていねいに収穫等ができるが、手を休めることが多くある。	作物を大切に育てようとする態度を育成する。
N (1)	女	17:6	7:1 51.4 WISC	43	12:10	74	各種の作業はていねいになる。中座が多くおせっかいはやきすぎる。	体調を考え、自分に合った作業を選んでやる。
O (2年)	"	17:2	6:7 56.6 WISC	57	9:11	59	返事や態度は、てきぱきしている。息ぬきをする場面が多くみられる。	準備・後始末を責任持つてやる。
P (1年)	男	17:1	7:2 54.6 鈴木ビネー	45	14:8	91	体力があり、重い物でも持ち運べる。あいさつ返事ができない。	あいさつ・返事をきちんとし、いつもけじめある態度をとる。
Q (1)	"	16:10	6:0 54.6 鈴木ビネー	45	6:6	44	服装や返事は、きちんとできる。人にたずねることが不得手。	協調性を養い気軽に人と話ができるようにする。器用さを養う。
R (1)	"	18:8	12:7 57.1 WISC	101	14:10 以上	90	根気よく、最後まで責任をもって作業できる。返事の音が小さい。	指導力をつける。あいさつ・返事の声が大きくなる。
S (1)	"	16:5	8:9 54.6 鈴木ビネー	59	14:3	88	計量・計算が正確。作業中、手を休めることがある。	作物を大切に育てようとする態度を養う。
T (1)	"	16:5	5:1 54.6 鈴木ビネー	45	7:1	44	作業は、積極的に取り組むが、全てが大きざっぱで終る。	一つの作業を、責任持つて最後までやる。
U (1)	"	16:1	5:2 57.4 WISC-R	35以下	7:0	44	身じたくはよい。全て、受動的である。	達成可能な目標を常に与え、やる気を起こさせていく。



・そら豆の収穫をしているところ。長さ太さの両方から収穫してもよいかどうかを見なくてははいけない。



・さつまいもの苗を植える間隔を治具を利用してマークしているところ。

(3) 実践例

農園宿泊作業実習・公設市場への出荷・校内販売・観察日記・農園日誌等いろいろな取り組みによって「豊かな心・たくましい行動」に迫っているが、毎週の農園作業でも実践していることは言うまでもない。以下「豊かな心・たくましい行動力」を養成する為に取り組んでいる実例を紹介する。

① けじめを養成する為に

⑦ 作業開始・終了のときに必ず全員を集合させ、相互確認、あいさつを行っている。遅く来た場合は、特にきびしく指導している。

⑧ 先輩後輩に対する言葉の使い分け、指導者に対する言葉使いを細かな所まで指導している。

⑨ 長ぐつ、作業服、帽子、軍手といった作業の種類を考えてきちんとした身なりになるよう心がけさせている。

② おだやかな心を養成する為に。

毎年12月には、収穫祭を実施し、土に対するいつくしみや、作物へのいたわりの気持ちを持つことが大切なことを皆で話し合った。

③ 根気を養成するために。

1つの班に2～3の作物を割当て最後まで責任を持たせて管理させている。

④ てぎわよさを養成するために。

えんどうの豆の早取り競争とか、大根の洗浄競争等を行い、仕事の速さを競わせている。また、作業に遅くきた者は、正座させたり、水やりを一週間させたり等の罰を設け、仕事の取りかかりを早くさせるべく指導している。

(4) まとめ

昨年の表現化とはテーマが変わったが、ふだんやっている通りのことを着実に実践していけば今年のテーマにかなり迫っていけることを確信した。というのも、農園作業にはかなりたくさんの指導内容を含んでいるからである。しかし全員週2時間の作業だけでは、細かな所や継続的な指導が困難である。展望として、他の職業コースと同等の時間に組み込んでやっていく必要を痛感した。



・公設市場へ出荷するための玉ネギを、収穫しているところ。



・寒い中、全員で漬け物作りに精を出しているところ。手が冷たいと泣く子もいた。

【 印 刷 】

(1) 基本的な考え方

印刷学習では単元が、文集、年賀状、名刺、挨拶状等いずれになろうとも「文選」「組版」「印刷」「解版」「返し」等の作業工程を通して、次のような態度を育成することをねらいとしている。

- ① 仲間意識をもち、積極的に協力しあって作業をする。
- ② 作業する上でのきまりを守り、場に応じた言動がとれる。
- ③ 分担した作業工程を責任をもって、根気よく安全に留意しながら最後まで作業をする。

以上のような態度育成をねらいとしているが、このねらいを達成するために各工程の技能向上過程が非常に効果的な刺激になることが多いため、技能の習得も重要なねらいのひとつと考えている。どの単元でも同じ作業工程だということは、生徒にとって「学習内容がよく理解できる。」「作業の出来、不出来が自分で評価できる。」「次の作業の予測ができる。」等の利点があり、生徒たちの技能習得の向上に対する意欲づけがされやすいといえる。

彼らの意欲が基本的な技能習得を通して、よりよい態度を身につけ、たくましい行動に発展すべく学習をすすめたいと考えている。

(2) 生徒の実態と目標

名 前	実 態	目 標
I	①教師に指示されれば下級生におしえようとする。 ②指示に従えるが自分の意志を人にははっきり伝えられない。 ③確実に習得できたことは、作業をゆっくり続けられる。	①指示がなくても友だちを手助けしようとする。 ②自分の意志をはっきりと伝えようとする。 ③新しいことにも積極的に取り組みやりとげる。
K	①仲間意識がうすく、一人で黙々と作業をする。 ②声が小さく、はっきりとした応答ができない。 ③わからないことがあっても聞こうとしないために、何もしないですごしてしまうことが度々みられる。	①みんなは仲間だという意識をもち、積極的に協力しあって作業をしようとする。 ②大きい声ではっきり応答する。 ③確認を求めながら最後までがんばって作業する。
J	①やたらに口や手を出して他の仕事のじゃまをする。 ②固執性が強く指導者の指示になかなかしたがえない。 ③集中して作業できる時間がきわめて短い。	①友だちに迷惑をかけないよう作業をする。 ②指示されたことを素直にしたがうことができる。 ③指示や注意をうけながら作業を続けようとする。
T	①依頼心が強くすぐ友だちや指導者に尋ねようとする。 ②薬の副作用のため指先や口元がもどかしく、言葉より先に手が出るが多い。 ③周囲からの刺激にすぐ反応し集中して作業ができない。	①友だちの作業のじゃまにならないように、できるだけ自分の力で作業をする。 ②はっきり、ゆっくり応答する。 ③指示や注意をうけながら作業を根気よく続ける。
U	①マイペースで作業を行い仲間意識が殆んどみられない。 ②作業開始時刻に遅れてくることが多い。 ③動作が鈍く、作業量がきわめて少ない。	①回りと同じ様に作業を行い人に迷惑をかけない。 ②遅刻をしない。 ③語尾まではぎれよくはっきりと応答する。 ③動作をできるだけ早くしたくさん作業をする。

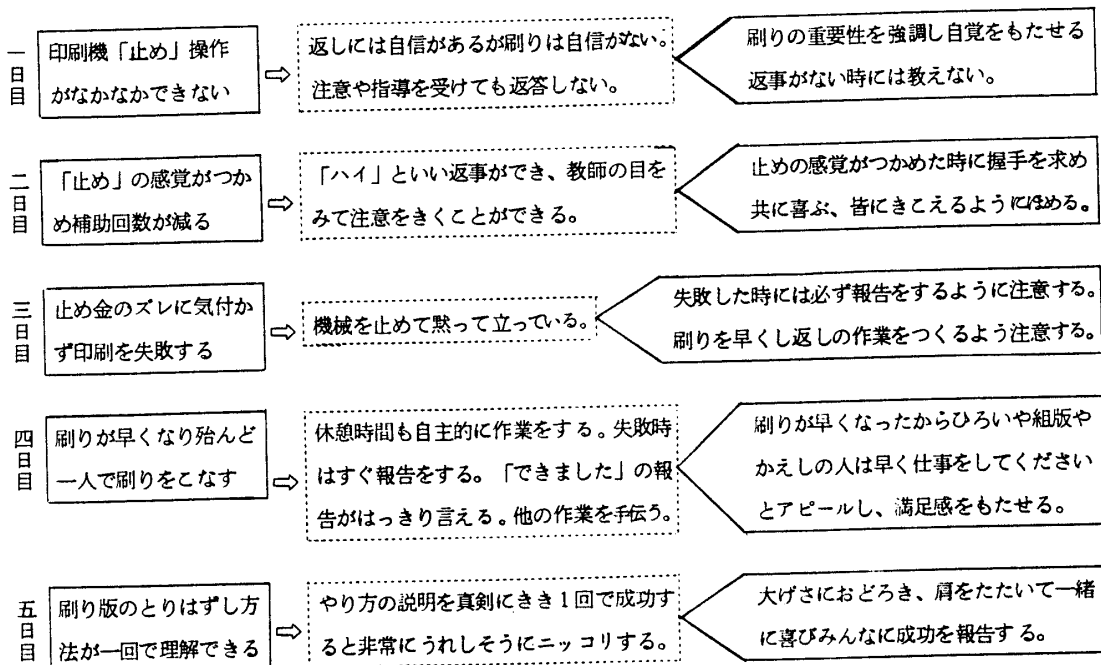
(3) 年賀状印刷実習を通して積極的な態度にか変わったKの実践例

Kは57年度公立中学校特殊学級から入学した。能力的には本校高等部生徒の中ではかなり高い生徒であるが、学習態度は消極的であり、生活面でも帰宅が遅い等の問題行動がみられた。

印刷学習時の問題点としては、次のような点が挙げられる。

- ①はっきりと大きい声で応答できない。
- ②印刷の技能習得に対し消極的である。
- ③教師を正視できない。
- ④印刷班の仲間とのつながりが弱い。
- ⑤失敗をかくそうとする。

以上のような問題点を改善するため、8日間の年賀状印刷実習では「刷り」の技能向上の指導とかかわらせながら態度の変容を図ることにした。

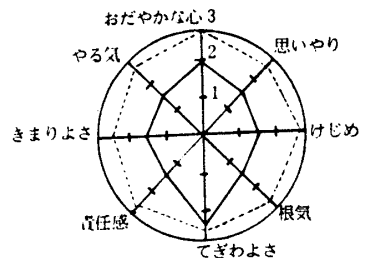


Kは実習後の反省会では自信に満ちた大きい声で、印刷学習に対する意欲を発表した。又実習後の職業の時間では自発的に友人に教えたり、学習参加態度が積極的になるなど、右記のプロファイルにみられるような態度の変容がみられた。

(4) ま と め

Kは問題点はあったが能力的には高い生徒であったために技能習得が容易であり、技能の向上と態度育成を結びつけることができたが、この方法がだれにでも通用するとは言えない。

しかし、個人の実態に応じた技能向上の指導を通して、よりよい作業態度の育成をめざしたいと考えるものである。



— 実習前
… 実習後

【陶 芸】

(1) 基本的な考え方

陶芸でははしおきの製作、銘々皿の製作、用途を考えた自由作品の製作、さらに、それらの焼成にかかわる簡単な作業等を学習内容としてきた。そのうち、はしおきと銘々皿は、販売することを目的としており、規格に合った製品を量産することを目標とした作業である。

規格品を量産して販売するという形態は、一般社会における職業生活の形態である。少しでも社会に近い形をとり入れて作業させることにより、迅速、確実に、しかも集中して根気強く取り組む等の態度育成を図りたい。また、あいさつや言葉づかい、身だしなみ等、働く者のエチケットを身につけさせることもねらいとしている。

販売するという目的を果たすために、技能に習熟させることも重要な要素となる。作業内容の精選、用具の工夫、反復繰り返し等により技能の向上を図り、商品価値のある物を製作することを目指している。なお、製作工程中の焼成は指導者の手で行っている。

(2) 生徒の実態と目標

生徒名	実 態	目 標
B (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○体がかたく、手指の巧緻性に劣る。 ○自由造形を好むが、気分左右されやすい。 ○返事やあいさつが、正しくできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指示された作業に、最後まで取り組む。 ○返事やあいさつを正しくする。
D (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○口数が少なく、黙って作業する。 ○わからなくても尋ねず、いいかげんにすます。 ○動きが緩慢。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場に応じ、元気よく返事をしたり話したりする。 ○動きを速くする。 ○作品の良否を意識して作る。
P (1)	<ul style="list-style-type: none"> ○理解が速く、指示通りできる。 ○場に応じた言葉の使い分けができない。 ○言葉で他を傷つけることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場に応じた正しい言葉づかいをする。 ○良否を意識して量産する。
Q (1)	<ul style="list-style-type: none"> ○作業は速いが雑。 ○根気が続かない。 ○返事がよい割に理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○黙々と最後まで取り組む。 ○ていねいに作業する。 ○わかるまで質問する。

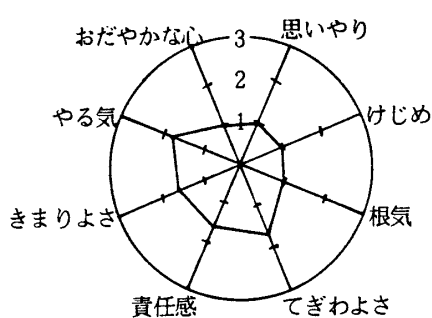
(3) 実践例 — 銘々皿の成形におけるQの指導 —

① 実 態

Qは9月より陶芸班に属し、用途を考えた自由造形（灰皿・つぼ等）や、銘々皿の量産に取り組んできた。陶芸班での活動は日が浅いが、中学部3年間で粘土を素材とした学習を多く経験しているため、比較的慣れており、手早くしかも大胆に作品を仕上げることができる。しかし、販売を目的として規格品の量産に取り組んだのは、今回が初めてである。指示したことに対しては素直に、しかもファイトをもって取り組もうとするが、作業の技能や態度が未熟なために、商品価値のないものであったり、量産につながらなかつたりする傾向が強い。

Qに対する指導の方針を定めるため、作業能力の実態を項目別に評定尺度にあてはめてみる

と、次のような円形プロフィールを形づくった。



S57年9月

このプロフィールから、

◦おだやかな心、思いやり、けじめといった、いわゆる情
操面の発達が未熟である。

◦やる気はあるが、長続きしない。

というQの傾向が明らかになった。

到達レベルの低い4項目について実態をみると、次のよ
うになる。

項 目	実 態 (Q)
おだやかな心	◦感受性が豊かで、プライドもある。 ◦失敗したり、注意を受けたりすると動揺し、すっかり自信をなくしておどおどする。
思いやり	◦自分のことよりも他人のことが気になり、口が出やすい。 ◦おとなしい者に対して支配的な傾向が見られる。 ◦他の失敗に対し敏感である。
け じ め	◦元気よくあいさつや返事をする。 ◦わからない時は尋ねるが、説明が理解できていなくてもわかったように言う。 ◦話し好きで、けじめを忘れがちになる。
根 気	◦取り組みはよいが、時間と共によそ見や手を休めることが多くなり、作業のペースがおちる。また作業内容もいがかげんになりやすい。

一方、販売を目的とする作業であるからには、技能面での習熟も重要な要素となる。銘々皿の成形にはいくつかの工程があるが、竹べらで葉のふちにそって切る工程に、ある程度の技能を要求される。手指の巧緻性に劣るQは、この工程でのミスが多く、作品の商品価値を落としてしまう。

② 指導の方針

以上のような実態から、Qの指導方針を次のように定め、実践していった。

㊦ 作業内容を正確に理解させ、安定した気持ちで取り組ませる。

Qは「わかりました」、「はい」と、とてもよい返事をするが、実際はわかっておらず、やらせてみるとできないことが多い。できないということが不安感を強め、おどおどした態度をとらせることになる。また、自己より弱い者に対して支配的であるのは、自信がないことに起因する欲求不満の代償作用ではないだろうか。そこでQに対して、作業内容を確実に理解させ、より正確な作業をさせることで自信を持たせ、安定した気持ちで取り組ませたいと考えた。そのために、次のような点に配慮した。

◦説明や指示を復唱させ、Qの理解の程度を確認する。理解できたことがわかるまで説明や指示を繰り返したり、方法を工夫したりする。

◦失敗はとりかえしのつかないものではなく、適当な処理をすることによって許されるものであることを教え、過度の緊張を与えないようにする。

・賞賛や注意はできるだけ場面と言葉を精選して与え、刺激を少なくする。

④ 目標を明確にし、量産を意識して取り組ませる。

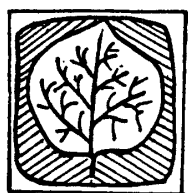
目標もなく同じ作業を繰り返すのは困難である。そこでQには、毎時間の目標数を決めて取り組ませ、量産するために、時間いっぱい頑張らねばならないことを感じとらせるようにした。

- ・銘々皿は5枚をセットにして販売するため、合格品が5枚を単位にして必要であること。
- ・不合格品が少なくなっていくこと。

の2点も、慣れるに従って条件として与え、負荷を加えていった。

⑤ 技能の向上を図る。

手指の巧緻性が劣るのに加え、商品としての意識が低いため、素材に対する扱いが非常に雑である。従って、製品の良否の判別に時間を費し、商品としての意識を高めることに努めた。



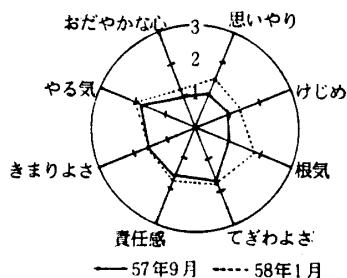
粘土（斜線部）の上のせた葉のふちにそって、竹べらで切るという工程において、
・葉もいっしょにカットしてしまう
・左側部分のカットが全く葉にそわない
・竹べらが一気に走らないため、切り口に凹凸ができる。といった点に対応するため、

- ・比較的葉のふちにそいやすい右側のカットを練習させ、左側は粘土板を回転させて、右でカットさせる。
- ・葉のふちを損ねないため、少し外側をカットさせる。
- ・竹べらをおろしたら、片側のカットが終わるまで上げさせない。

という3点を配慮し、教師が手をそえてカットすることで感覚を身につけさせるようにした。

③ 経過と考察

銘々皿の成形に取り組んで30時間余りになる。作業態度の変容をみるため、評定尺度を用いて円形プロフィールで表示してみた。



このプロフィールから、態度面に著しい変容は見られないが、凹部分が少し改善されてきたのがわかる。しかし、「おだやかな心」の落ちこみはほとんど改善されておらず、情緒の安定を図るために、手だてを加える必要性が強い。

一方、技能面では、竹べらの使い方に少しずつ慣れ、不合格数が減少傾向にある。特に葉のふちを損ねずにカットしようとする意識が高まってきた点に、進歩を認める。

態度全般にわたりレベルアップを図らねばならないことは、言うまでもない。

【木 工】

(1) 基本的な考え方

木工コースでは、今までに、木工用具や木工機械を使って、いろいろな作品を作ってきた。トロ箱、ゴミ箱、命札、プラカード、花壇の名札作り等がそれである。それらの作品の中には、外部から受注したものもあり、しかも納期が限られていた。ただ作ってしまえばよいというものではなく、納期までに見取り図通りに正確に作らなければ、製品として通用しない事を生徒に十分理解させ、我々もこの点を重視し、正確に、迅速に、ていねいに作らせてきた。もちろん、「指示通りに作業する。」「時間一杯、作業に一生懸命に取り組む。」等の態度面の重要性は、たえず指導している。

このように、我々は上述の作品作りを通して、基本的な技能の向上を図りつつ、「責任感」や「根気強さ」等の作業態度の育成を重点において、指導してきた。

これらの事は、将来、彼らが自立していく上でも、重要な事であると思う。したがって、職業の時間を実社会の場に即して、作業学習を進めてきている。その中で特に、「責任感」や「根気強さ」等の作業態度の養成に主眼をおき、実践を積み重ねてきている。

(2) 生徒の実態

生徒名	実 態	目 標
R (1年)	時間一杯作業をやり通すことができ、作業の応用もできる。受け答えの声が小さい。彫り方はていねいだが、作業はやや遅い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受け答えの声を大きくする。 ○ 彫刻刀の使い方を工夫しながら、能率よく作業をすすめる。
S (1)	指示を守って、時間一杯ていねいに作業する。作業中の私語はない。作業はやや遅い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ わからない事があれば、必ず指導者に聞く。 ○ 能率よく作業をすすめる。
L (1)	まじめにていねいに作業するが、作業はやや遅い。1つの作業が終ると、指示を聞かずに、何もしていない事がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 能率よく作業をすすめる。 ○ 指示通りに作業をする。
M (1)	指示を守って、まじめに作業に取り組むが、作業をいい加減にする事がある。作業中、時々、手を休める事がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手を休めずに時間一杯ていねいに作業を続ける。 ○ 能率よく作業をすすめる。
A (3年)	指示を守って、時間一杯まじめにていねいに作業をする。私語もない。作業はやや遅い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ わからない事があれば、必ず指導者に聞く。 ○ 能率よく作業をすすめる。
C (3)	作業能率はよいが、作業中の私語がある。指示がきちんと守れない事がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私語なしで時間一杯作業に取り組む。 ○ わからない事は、必ず指導者に聞く。
E (3)	作業能率はよいが、作業中の私語がある。受け答えがきちんとできない。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私語なしに時間一杯作業に取り組む。 ○ わからない事は、必ず指導者に聞く。

(3) 実践例

～ Mの指導を通して～

2学期当初より、糸のこ盤や彫刻刀を使って「花びんしき」や「柱掛け」の製作をおこなっており、現在にいたっている。

Mは以前に糸のこ盤を使用しており今回が初めてではないので、使用上の注意を十分に守らせ

ながら使用させたが、材料の板に写した図案にそってうまく切れず、時々凸凹になった事があった。そこで、糸のこ盤を使う時には、左右の手の入れ具合を常に意識すること、少々時間がかかってもよいから、丁寧に材料の板を切らせることを自覚させながら、指導にあたってきた。そして、回数を重ねるごとに徐々にではあるが、図案にそって切れるようになってきた。

また、「柱掛け」の製作において、糸のこ盤で切り落とした材料の板を彫刻刀で彫らしてみると、彫刻刀の使い方は大体よいが、立体感の出し方をよく考えないでただ彫っているという場合が多くあり、他の生徒より能率よく作業ができない事があった。これは、立体感を出すにはどう彫ればよいかがよく理解できない事から、作業能率が悪くなるのではと思われる。また、態度面でもしばらく彫っていると気をぬき、手を休めて何もしていない事がたびたびあった。

そこで、指導者は次のような手だてをおこなった。

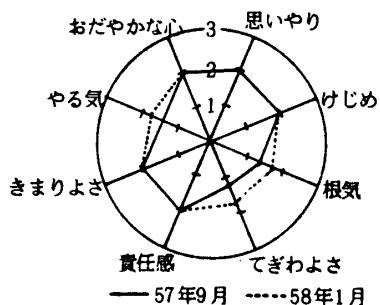
- ① 立体感をうまく出すために、彫刻刀の使い方に工夫させ、深く彫るところや浅く彫るところ、丸みのある彫り方などを指導者も一緒に手を添えながら、彫り方の要領をつかませた。このような事を毎時間指導していく中で、少しずつだが立体感の出し方にも工夫できるようになり、現在にいたっている。



—柱掛けの制作—

- ② 根気の養成の面では、

指導者がたえず「時間一杯がんばろう。」といった激励の声をかける。最後までがんばってやれば、作品が引き上がった時の成就感が味わえる事を常に意識づけさせる。作業中に手を休める事があれば、その都度指導していくことなどを行ってきた。上述の指導した事に対してのMの作業能率や作業態度は、顕著にはないが、左図の円形プロフィールから少しずつ変容しつつあることがわかる。



(4) まとめ

Mについて、実践してきたことを述べてきたが、Mに限らず、どの生徒にもたえず指導と助言が必要であり、特にMについては態度面について指導を要する。態度の変容があるまで根気よく指導していくべきであるし、また、変容した態度が維持できるような指導も必要である。

特に、高等部の生徒は卒業すれば社会参加の形をとるのだから、職業の時間を「根気づくり」、「粘り強さ」の養成の場ととらえ、今後も機会あるごとに指導していきたい。そして、生徒たちに「根気（粘り強さ）」の養成ができれば、社会参加へ一歩すすんだものになると思う。

【被 服】

(1) 基本的な考え

女子全員（5名）で構成されている。そもそも、女子が全員、被服に携わっている理由として、次の事項が挙げられる。

- ① 将来の家庭生活に於いて、被服という部門が、女子にとって最もかかわり深いものであること。
- ② 社会に出て働く際、その職種が被服コースの学習内容と比較的似通ったものが多くなると思われること。
- ③ 女子は、一様に被服コースに強い興味と関心を示していること。

以上の観点から、生徒の実態に即した学習内容を、吟味・精選して取り組んできたわけである。作品（製品）を作り上げるという学習が殆んどではあるが、ここで忘れてはならないことは、出来あがった物が必ず第三者の手へ流れていく、ということである。つまり、受注 → 作品（製品）の完成 → 販売というルートをとどって、学習が進められているわけであり、販売のために、生徒たちには、規格品を正確に、迅速に、丁寧に仕上げることを要求してきた。

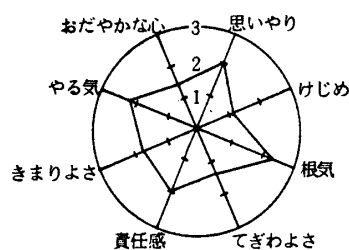
現在までに、ぬいぐるみ、ししゅう、縫製品、紙人形、ペーパーフラワーなどの作品を手がけ、バザー販売をするほか、民間会社からの受注により、各種製品の部品作りと取り組んできている。

(2) 生徒の実態と個人目標

生徒名	実 態	目 標
H (3年)	意欲は満々である。根気よく取り組み、自分から仕事を求めることもある。理解力に乏しく、手先の器用さに欠けるため、特に手芸品の製作が苦手である。気分を損うことがある。	<ul style="list-style-type: none"> • 正確な仕事をする。 • 丁寧に仕上げる。 • 感情の動揺を表わさない。
G (3)	仕事は丁寧である。動作が遅いため、作業の取りかかりが遅く、作業能率は悪い。挨拶・報告・質問がはっきり言えない。	<ul style="list-style-type: none"> • はっきりと受け答えをする。 • 取りかかりや、切り換えを早くする。
F (3)	著しく理解力に欠け、作業をする段階には至らない。集中力・根気に欠ける。	現在、病気のため自宅療養中

生徒名	実 態	目 標
O (2年)	意欲はあるが、集中力に欠ける。気分むらがあり、時々息抜きをする。仕事さばきは良いが仕上がりが雑である。	<ul style="list-style-type: none"> • 必要のない限り手を休めない。 • 丁寧に仕上げる。
N (1年)	意欲は満々である。根気よく取り組む。作業内容を理解するまでに、何度も反復練習を必要とする。わからない事があっても、わかっているふりをする。	<ul style="list-style-type: none"> • 正確な仕事をする。 • わからない事は、よく聞いてからする。

(3) Hの実践例 — バスケット部品作りを通して —



左の図表は、Hの作業に対する態度を示したものである。精一杯頑張ろうとする姿勢は見られるが、情緒的に不安定な面が時折り見られる。そのために、仕事に対する態度にもむらがあり、感情に流されて、反抗的な言動をすることもある。技能面でも、器用さに欠けるため、細かい部分の仕事がうまくいかず、何度もやり直しをする場面が見受けられる。

H商店の依頼を受けて、バスケット（小物入れのかご）の部品を作ること知らせる。比較的簡単な作業ではあるが、ペンチを使って針金を切る作業には、長時間ともなると、相当のエネルギーを消耗する。期限内に多数の量をこなす必要に迫られ、指導者の絶え間ない激励を受けて作業は続けられた。

指導者は、次に挙げる彼女の作業中の問題点をチェックし、その指導に心を配ることにした。

- ① 言葉づかい、礼儀に対する意識が薄く、周りから非難めいた事を言われると、時々反抗的なそぶりを見せる（作業態度）
- ② 針金を切り揃えることが不正確で、出来上がりが一定の長さにならない。（作業技能）
そこで、Hに対し、次の手だてを試みることにした。
 - ① 入・退室の挨拶の励行。指導者に対する言葉づかいの反復練習。
彼女を班長という立場に置き、友だちの言動について指示を出させる。
 - ② 切った針金のなかから、規定のもの以外を全て「不良品」として処分し、長時間がんばった苦勞が報われないことを自覚させる。

これらの手だては、作業のたびに継続して行われ、彼女の意識の向上をねらっていった。そ

の結果、彼女の欠点は徐々にではあるが、カバーされ始めた。

〈作業態度の改善〉

班長として、友だちの言動を観察し、指示を出すことにより、自身がグループの模範となるべき立場であることを自覚し始めた。友だちの言動に対して反省を促しているうちに、いつしか自身の言動を顧みる心が芽生えた。

〈作業技能の向上〉

規格外のものが、商品として全く値うちのないこと、しかも規格品を作ることが職業人としての必須条件であることを徹底的に植えつけることにより、作業に対しての細心の注意を払うことを覚え始めた。そのために従来の作業能率より幾分低下することはあっても、正確に仕事をこなしていく事の方が、はるかに大切であるという認識がなされた。

(4) まとめ

本校の生徒がこなせる仕事は、ごく限られている。その上、指導者が絶えず援助し、助言を与えなければ仕事が完成しないことを思えば、将来彼女たちが職業人として自活できる最もふさわしい場を、果たして見い出せるかどうか不安である。彼女たちに、生きて働く喜びを味わわせ、多少なりとも家庭生活に、あるいは社会生活に貢献させることを願って指導を続けているが、彼女たちを理解し、温かく迎えてくれる職場を見い出すことは容易ではない。

3 今後の課題

障害を持った生徒たちが、今まさに社会に飛び立とうとしている段階で、私たちが彼等に望むことは数多い。障害を持つがゆえに直面するであろう、さまざまな問題にうろたえたり、挫折したりすることなく、周囲の暖かい心に包まれて精一杯生きていくためにも、子どもたちが心豊かに、たくましく成長してくれることを望んでいる。

社会のなかで、大多数の人間に要求される「労働」に主眼を置き、生きて働くことの大切さ、人とのかかわり合いの重要性を認識させるために、特に作業学習に力を注いできた。生徒の実態に即した5つのコースを設けてはいるものの、指導を重ねていくなかで、それぞれの部門における問題点や課題が明らかになってきた。その中の幾つかを次に述べることにする。

(1) 能力差に応じた指導のあり方

作業学習の重点目標については前に述べたが、生徒の学習能力には著しい差が見られるため個々の目標に対する配慮が、非常に重要となってくる。同じ工程をたどり、同じ物を作り上げていくなかで、生徒の能力に応じた作業内容を考慮する事は当然であるが、好むと好まざるとにかかわらず、生徒に同一の作業種目を与えているのが現状である。作業内容を生徒自身に選択させ、意欲を持たせることを考えるならば、「やる気」「根気」等の面での向上は認められ

ようが、生徒の興味と作業能率は必ずしも一致するとは限らないという問題点も出てくる。したがって、現段階では、指導者が生徒の実態を把握した上で、個々に応じた作業内容を課していることの方が多い。

こういった過程のなかでも、コースによっては、さらに新しい問題点が出てくる。農耕・園芸のように、全員を縦割りの等質グループに編成している場合は、さほど見られないが、いわゆる分業形式をとっているコースでは、能力に応じた作業内容を分担してはいるものの、作業の処理能力の違いから、工程がスムーズに流れない面も出てくる。各人の能力と仕事の質・量とのバランスをうまく取ることの必要性を感じている。

(2) 継続した指導のあり方

生徒の実態を把握し、個別の指導目標を立て、目標達成に向かっての積み上げを試みてはいるものの、各コースの指導時間数に対して検討する余地が生じてきた。すなわち、農耕・園芸コースにおいては、週一回2時間の学習時間、その他のコースでは、週三回(隔月)6時間の学習時間が組まれているわけであるが、個人目標の中には、長時間かけて継続して指導しなければ効果の薄い項目もあるため、作業時間数を現状より多く確保する必要に迫られている。週二時間単位の学習では、真の意味での「おだやかな心」「根気」は、培われにくいと思われる。また、円形プロフィールによる評価についても検討の余地を残している。

(3) コース別の指導のあり方

全生徒は、「農耕・園芸」に加えて、「木工」「印刷」「陶芸」「被服」のいずれかに所属し、コースへの配属は教官が行っている。各人の能力・特性がフルに発揮され、生き生きと学習に取り組める場を見い出してあげることが、私たちの責務ではあるが、各コースの指導内容を更に検討することによって、生徒たちが、より生き生きと変容することも考えられる。と同時に、現在設けられているコースのほかに、もっと別の新しい分野を開拓することはできないものであろうか、という課題も抱えている。生徒の能力差が著しく、その特性も多様であるという実態を把握し、今後、更に巾広い立場から、作業内容を検討している段階である。

以上の問題をふまえ、生徒たちが今以上に豊かな心を持ち、たくましく行動し、能力一杯に、社会参加を果たすことを願って、今後の課題と真剣に取り組んでいきたい。